

人はいかにして神になるか

偉人崇拜の民俗学

川村学園
女子大講師 及川 祥平さん(33)

著者登場

武田信玄、楠木正成ら歴史的人物を祀る神社が数多く建てられたのはなぜか。

赤穂四十七士のような、人氣を集める郷土の英雄はいかに生まれたのか。民俗学の視点から国策、教育、観

光との関係を探り、「人神」成立に迫った。(武田智彦)

——研究の動機は？

及川 神格化された実在の人物「人神」に対する民俗学的な関心から始まりました。ただ従来と違い日本

人の神観念や習俗ではなく、人が神として思い描かれることに迫りたかったのです。従来は見落とされてきた、神とされない無数の偉人にも注目しました。

——神格化された人、さねなかった人の違いは？

及川 人物側に理由を考えるより、その時点の事情が重要です。人物があるイメージで知る人々がどの程度いるか、発起人の力量などです。祀られやすい人物

の条件はあると思います。——神格化にはメディアの役割も大きかった？

及川 神格化の前提となる、人物に関する知識がいかに伝達されたのが問題になります。伝達にはメディアが含まれます。近世以前も同じで、『太平記』があったから正成の神格化があり得たのです。

——観光資源化の中にも人物像の変容がある？

及川 あります。厳密に

は人物像は各個人の抱くイメージの問題です。ただ「人それぞれ」という結論に陥らないように注意しました。その立場で変容を説明するなら、結局「想起の仕組み」の変容といえます。すると観光資源化もまた人物を想起させようとす

る文脈の創出の一つといえます。観光資源化が新たなイメージを加えること、あるいは従来的人物像を抑圧することもあり得ます。

——顕彰追慕の心情は宗教的感情か？ 戦死者の追悼をどう位置付けるか？

及川 学術的に顕彰を定義するなら、宗教的感情とは区別するべきです。ただ現実には混じり合います。宗教的感情が先行する場合もあるし、事後的に宗教的感情を生むかもしれない。

——今後の課題は？

及川 著名人への跪拝的感情は、「偉人崇拜の民俗学」が回答を出すべき問題です。例えば、なぜ著名人のサインを壁に飾るのか。また平凡な死者の思い描かれ方も重要な課題です。

◇

本体価格6200円、勉強出版(電話03・5215・9021)刊。